

2018年2月 キューバ医療事情

下記情報は当地報道を抄訳したものです。詳しくは原文をご参照下さい。

#### 【キューバ医療事情】

2月1日【Granma】

“フィデル・カストロ・ディアスバラルト逝去”

フィデル・カストロ・ディアスバラルト（フィデル・カストロの長男で科学者）は、最近数ヶ月重いうつ病により医師団の治療を受けていた。2月1日午前には彼は自死した。

彼の治療は、当初入院治療が必要であり、その後社会復帰に向けて外来で継続治療が行われていた。

彼の死亡時、彼は国家評議会科学顧問、キューバ科学アカデミー副理事長を務めていた。

彼の科学における専門的な活動は、国内はもとより国際的な評価を得ていた。

葬儀の実施については、家族の意思により決定する。

2月1日【CUBANET】

“キューバ中部で列車事故”

10両編成の貨物列車が医療用車両に衝突。

パレデスから来た10両編成の貨物列車が木曜日の早朝に停車中の医療用車両に衝突した。幸いなことに死傷者は報告されていない。

内務省の調査によると線路の不適切な切り替えが事故の原因と考えられている。

この1年でサンクティ・スピリトゥス県では2回目の鉄道事故となった。1回目は2017年2月に事故が発生し、その時は6人が死亡、50人以上が負傷した。

2月2日【CIBERCUBA】

“ラス・トゥナス県は高齢化地域”

ラス・トゥナス県では高齢化が進んでいる。ラス・トゥナス県の平均寿命は79.5歳で、女性の平均寿命は81歳、男性の平均寿命は78歳を越えている。

資料によるとこの県では60歳以上の人口が10万人を越え（全人口の19.2%）、2030年には25%を越えると予想されている。

ラス・トゥナス県では100歳以上の方が150人、110歳以上の方が2人いる。

高齢者の生活の質を保証することは重要な問題である。2018年にオマハの老人ホームが開所した。この施設では、日中施設で過ごし、夜間は家に帰り家族と一緒に眠ることができるデイ・サービスも可能である。またラス・トゥナス市のグスタボ・アルデレグイアのポリクリニックでは50人収容可能な老人ホームがまもなく開設される予定。

加えて14の保健地区において老人介護士の学校が創設される。

しかし、ラス・トゥナス県の高齢者の数と開設されている老人施設の能力から、この地域においてはまだまだ道のりが長いことがわかる。

2月6日【CUBADEBATE】

“キューバ医療団はボリビアでの12年の活動を祝う”

2006年2月2日、大洪水に見舞われたボリビアにフィデル・カストロの命でヘンリー・リーブ国際医療団が派遣されたのが最初の活動。以来12年間、ボリビアの主に農村部や今まで医療が行き届かなかった場所においてキューバ人医師達の日々の活動が住民達の健康の質の改善に貢献したと認められており、ボリビア当局や住民達の尊敬や称賛を獲得している。

ボリビアにおいてこの12年間でキューバ医師団は、6700万人の治療を行い、22万4千件以上の手術を行い、10万人以上の命を救っている。

ミラクル・オペレーションに関しては、69万2405件の眼科手術が施行され、5万9568人の白内障が治療された。そして現在医療旅団は5つの眼科センターで、あらゆる視力の状態の患者を治療している。

またキューバ医師団は現在、ボリビアに9つの部局に759人の協力者を配し、これらの地域住民に対して必要な医療サービスを提供し続けている。

2月6日【CIBERCUBA】

“ビジャ・クララ県で人工股関節置換術施行”

ビジャ・クララ県で今年に入り、首都ハバナ以外で初めの両側股関節形成術が成功した。変形性関節症、リウマチ性関節炎、敗血症性関節炎の後遺症や腫瘍や特別な骨折による股関節形成異常といった疾患の患者に対して約45分の手術が行われる。

術後すぐに痛みが消失するため、人工股関節置換術は患者から高く評価されている。また術後翌日には患者は座ったり歩いたりすることができるようになる。

既にサンタ・クララ病院では1週間に30例の股関節形成術を行っている。

2月10日【Diario Las Americas】

“医薬品の転売を避けるためのキューバ保健省の新たな方法”

2月1日よりハバナで始まった新しい処方箋には患者のデータが含まれ、医薬品の販売と流通における犯罪を避けるために処方元の追跡を容易にしている。

処方箋の右上には専用のシールを貼ることが決まった。これは処方元を特定するためのものである。国家レベルの機関では三角、病院は円形、ポリクリニコは長方形、その他の保健センターは多角形とシールには4つのデザインがある。

加えて必要な住所と一緒に薬剤名と患者のID番号を記載する枠が設けられた。

ハバナの場合は、処方箋の下の部分に投与量と通し番号と一緒に県名も記載しなくてはな

らない。これは他の県で流通することを防ぐためである。

署名した医師が所属する県にある薬局でしか処方箋は有効ではないという規定があるが、多くのキューバ人はこの規定に違反し、闇市場では医薬品が販売されている。

新しい処方箋は2月19日から残りの県でも開始される。

#### 2月14日【CUBANET】

“ビジャ・クララの交通事故で6人が死亡”

地元紙によるとビジャ・クララ県マニカラグア市の高速道路で、2月13日にコンテナを運搬中のトラックに乗用車が衝突した。乗用車に乗っていた6人が死亡した。

事故の原因は現在調査中。

#### 2月15日【Diario Las Americas】

“シエゴ・デ・アピラでバスの横転で少なくとも乗客40人が負傷”

2月15日木曜日にハバナ-サンティアゴ・デ・クーバ間の中央高速道路のハバナから448kmの地点（シエゴ・デ・アピラ県）で、バスが横転する事故が発生。少なくとも乗客40人が負傷し、病院へ搬送された。幸いなことに、重傷者はいないもよう。事故の原因は現在当局が調査中。

#### 2月15日【Diario Las Americas】

“木曜日にまた重大な交通事故が発生し、20人が負傷”

アスリートやジャーナリスト、国家スポーツ研究所の関係者が乗ったバスは、Vクラシック・サイクリングの第2ステージ参加後、キューバの東部の町バラコアからハバナに向けて移動中であった。ラ・グラン・ピエドラの山間部を下っていたトラックがコントロール不能となり、崖から転落するのを防ぐため、ハンドルを切り過ぎたことにより、トラックが横転し、移動中のバスと衝突して事故が発生した。この事故により20人が負傷した。重傷者2人はサンティアゴ・デ・クーバ市の病院で手術を受けた。

#### 2月16日【Diario Las Americas】

“2台のトラックを含む3重衝突で12人が負傷”

2月16日金曜日朝にビジャ・クララ県のラ・パロマ市で2台のトラックと1台のトラクターが3重衝突を起こし、12人が負傷した。今週4つ目の重大な交通事故となった。

重傷者はサンタ・クララ市の県病院に送られ、残りは市の保健センターで治療を受けた。

木曜日にラ・グラン・ピエドラ山岳地帯で起こった別の交通事故では、20人が負傷し、そのうち13人が既に亡くなっている。

2月19日【Diario Las Americas】

“トラックが横転し、3人の女性が死亡、21人が負傷”

2月18日の日曜日、サンティアゴ・デ・クーバ市とパルマ・ソリアーノ市間を運行する乗客を乗せたトラックが横転し、3人の女性が死亡し、21人が負傷した。事故の原因は運転手が、トラックのコントロールを失ったことによると考えられている。5人の成人が重傷で、小児1人が足を骨折した。今週5つ目の重大な交通事故となった。

2月22日【CIBERCUBA】

“ビジャ・クララでは年間36例の腎移植を記録”

ビジャ・クララ県病院では2001年以降腎移植が行われている。2017年には36例の腎移植が行われた。ビジャ・クララ県だけでなくサンクチ・スピリトゥス県やシエンフエゴス県からの30歳か～55歳の患者が腎移植を受けた。

2016年は35例の患者が腎移植を受けており、2018年も腎移植を受ける患者数は引き続き増えていく傾向にある。2017年は90%以上の成功率で、キューバの平均より良い結果であった。

2月23日【Marti】

“ビジャ・クララの交通事故により2人死亡、4人負傷”

2月23日金曜日にハバナから284kmの地点の中央高速道路で交通事故が発生した。事故により2人が死亡、4人が負傷した。

当局によると、ツアーバスの進路に乗用車が進入して事故が発生した。乗用車の2人が死亡し、ツアーバスの乗客4人が負傷した。

2月28日【Marti】

“キューバ東部でマグニチュード3.9の地震”

キューバ国家地震観測所によるとこの地震は、現地時間の18時7分に発生し、震源地はサンティアゴの東40km、深さ33kmと考えられた。

2018年に入ってから3番目の体感できる地震であり、パルマ・ソリアーノ市、サン・ルイス市、ソングーラ・マヤ市とサンティアゴ・デ・クーバ市と隣接するグアンタナモ県のカイマネラ町で揺れを感じられた。地震による死傷者や物的損害の報告はない。

キューバ東部のサンティアゴ・デ・クーバ県は地震の発生の影響を最も受けやすいと考えられている。